

「春に雅な復活行事」(協同組合通信/風雪弾)15.2.20

2003 年は、多くの記念すべき節目の行事がある。最近見た新聞で、小特集や関連記事がかなりある。

鉄砲伝来 460 年、江戸開府 400 年、ペリー来航 150 年、鉄腕アトム 40 年等。

趣は変わるが、茨城県北部 5 市町村の「金砂磯出(かないそで)大祭礼」が三月にある。五穀豊穡を祈願する神社の祭礼は、平成の今も氏子によって津々浦々で継承されている。この祭典は始まりの古さと、行事の中身が違う。

(1 月 5 日付日経新聞から抜粋)

西暦 851 年(平安時代)から 72 年毎に挙行され、今回は第 17 回目という。

東金砂神社(水府村)と西金砂神社(金砂郷町)の 2 社が執り行い、6 泊 7 日で 75 キロの行程を練り歩き、途中所々で万民豊楽を願って田楽舞いを披露する。何しろ前回の記憶のある人が少ない。資料を見ながら衣装や神輿の修復、小道具類や車馬の手配など、大童のようだ。今や氏子の数が減り、周辺の大学、高校はては幼稚園児までボランティアで参加する地域挙げての一大イベントだ。

昨今 NHK の大河ドラマが、地域の町おこしや活性化に貢献していると聞く。

低迷する経済に負けず、貴重な伝統行事を古式に則り、大いに盛り上がって欲しい。前回でさえ約 100 万人の人出があり、今年は 150 万人の見物人を見越すと関係者の意気やよし。デジタル文化の粋を集め、映像・音声で記録に残して頂きたい。時は 3 月下旬、昨年 of 例もあるから、桜が早く咲けば大いに花を添えるだろう。

奈良薬師寺の最勝会(さいしょうえ)が、四月 26 日に約 500 年振り復活するという。宮中の御齋会(みさいえ)、奈良・興福寺の維摩会(ゆいまえ)とともに、日本三大会の一つ。平安時代に始まったが、焼失などで、いずれも行われなくなっていた。儀式の特色は、昨今新しい感覚で、若者に再び脚光を浴びてきた声明にあると見た。(1 月 4 日付毎日新聞より抜粋)

鉄砲で関が原を制した家康が幕府を開き、太平の眠りを覚ました蒸気船で喝が入り、TV アニメのアトムで近未来のロボット社会を夢見た日本人。平安時代以来の伝統文化に触れ、雅な実りの春の一時を過ごして欲しい。

(気象情報システム株式会社 高 津 敏)